



TITLE:

自由貨幣運動

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

CITATION:

河田, 嗣郎. 自由貨幣運動. 經濟論叢 1921, 12(3): 497-498

ISSUE DATE:

1921-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127754>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第

卷二十第

行發日一月三年十正大

論叢

地方所得税と他地方交渉問題

法學博士 神戸 正雄

唯物史觀公式中の一句に就て

法學博士 河上 肇

獨逸流通税の變革

法學博士 小川郷太郎

時論

取引所改善の要點

法學博士 戸田 海市

注意すべき小作人問題

法學博士 河田 嗣郎

說苑

生計費研究法を論ず

法學博士 森本 厚吉

所得分配統計

法學士 汐見 三郎

雜錄

プレーフエーアの統計要覽

法學博士 財部 靜治

ビュツビヤー文庫

法學博士 小川郷太郎

自由貨幣運動

法學博士 河田 嗣郎

自由貨幣運動

河田 嗣 郎

戰時中に於ける貨幣濫發の爲めに著しく經濟界の常調を紊し、貨幣の購買力の減少の爲めに驚くべき困難を生じたることは、交戦諸國に於て廣く之を見る所である。而して此等諸國中に在つては、露西亞が最も困亂の狀況を呈しつゝ、あるが、併し獨逸の加きに在つても、貨幣の購買力の著しき減少は、國民中多くの者をして困難に陥らしめ、又社會經濟一般の狀態が之が爲めに攪亂せられたる所は實に著大なるものとする。茲に於てか近時獨逸に在つては、勞働者、月給取、賃料收得者などの如く、貨幣の定まれる額を以て其の所得と爲す者の間に、『自由貨幣』運動なるものが、少からず其勢を得ることとなつた。

此の運動は一九一九年九月にチューリンゲンのアルンスタットに創立せられたる『自由土地自由貨幣同盟』に依て行はれ始めたもので、自由土地及び自由貨幣運動として行はれつゝある

ものとする。

自由貨幣運動の理論は、シルヴィオ・ゲゼル¹⁾氏に依て闡明せられ、又ドルレ氏²⁾に従へば此の運動の目的は、總べての土地の國有制と、何等の利子なるものを齎さざる貨幣制を造ることとに存せられて居る。

ゲゼル氏の考ふる所に依れば、貨幣は交易の手段以外の何者でもない。そは其の形態上の性質によつて煩雜のものとなせらるべきものでなく、實に商品の交易をは安定的ならしめ、之を敏

活ならしめ、又簡便ならしむるものでなくてはならぬ。従て貨幣はそが交易手段として改善せられむ爲めには、一の財としては出來得べき限り劣惡のものたらしめられねばならぬ。尙ほ又國家は貨幣に對する需要と供給とをば、十分精密に適合せしむるに努めねばならぬとせられる。而して其の所謂自由貨幣なるものは、強制通用力を有する紙幣であつて、然かも一週間毎に其の支拂能力の一 $\frac{1}{1000}$ づつを失ふものとせられる。されば此の貨幣を有する者は、永く之を所

持すれば、するほど、損失を被る筈だから、人は出來得る限り迅速に之を流通せしむることとなるべきものとせらるゝ。而して一年の終りに於ては發行局は之を新貨幣と交換すべきものとせられるのである。斯くて此の運動を行ふ人は、貨幣の迅速なる流通に依り通商上の梗塞を除去し、景氣なるものを亡ぼし、失業を廢滅に歸せしめ、取引上の費用を省き、又利子歩合の減退を齎し得べしと信するのである。

即ち此の運動は貨幣を以て價値の測定者と見ることなく、單に此を交易の媒介者とのみ見る者である。而して貨幣そのものの、有する價値を速かに減退せしめ、終に之を無價値のものたらしむることに依て、其の財貨としての性質を亡ぼし、單純に之を交易媒介の手段たらしめ、以て貨幣の購買力の變動といふ現象ならしめんとするものである。即ち之れ貨幣價値を硬貨の品質價値に一致せしむることを理想とする現時の貨幣制度の正反對を往くことに依て、貨幣に伴ふ時弊を救はんとする運動なのである。³⁾

- 1) Silvio Gesell, Die natürliche Wirtschaftsordnung durch Freiland und Freigeld.
- 2) Dolle, Beseitigung des arbeitslosen Einkommens.
- 3) Die Freigeld Utopie, Von Fr. Olk (Die Neue Zeit, 39 Jhrg. 1. Bd. Nr. 13)